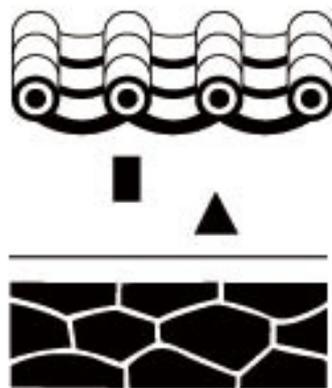


OGO 第75号

小田原ガイド協会だより

平成30年 3月 1日発行 (季刊)

NPO 法人 小田原ガイド協会 〒250-0014 小田原市城内3-22
TEL 0465-22-8800 FAX 0465-22-8814
ホームページ URL <http://www.odawara-gaido.com>



「平成三十年度

企画ガイドについて」

下山 峰司

小田原ガイド協会の平成三十年度の企画ガイド概要を発表します。項目の決定には二十八年度計画時に、当協会員より公募をいただいた約五十五件、二十九年度に実施した二十六件、今回提案していただいた三件、これらの内容を吟味して五十四件のテーマを基に絞り込みを実施しました。

企画ガイドの魅力は、一、テーマに沿った企画名を考え、二、コースや内容をあれこれ検討し、そして、三、下見で確認する。これらを通して曖昧だったところが明確になり、知識も確実になつていきます。これを基にお客様が喜んでいただける企画ガイドにしていきたいと思っております。

最近、チラシの置いてあるところで、「内容が良いとチラシが早くなるようです。」とのこと。企画ガイドの内容はもろろん、魅力のある企画ガイド名も重要かな？と感じました。楽しい企画にしていきたいでしょう。

年	No.	企画ガイド名(仮)	見どころ・ポイント	実施月
平成 30年	1	桜とお城 <small>さいかいちろ</small> と西海子小路	小田原城周辺の桜、額縁の海、昼食	4月5日
	2	太閤橋から一夜城・海蔵寺	シャガの花、新緑	4、5月
	3	箱根のイワタバコ	温泉と昼食、イワタバコ	6月
	4	親と子の小田原城探索	夏休み親子教室、座学後の探検	7、8月
	5	東海道ウォーク	古地図を片手に	9月
	6	酒匂川 沿岸を歩く	酒匂川の歴史・治水、二宮金次郎、	10月
	7	開運巡り	二宮神社、松原神社、合格祈願	11月
	8	小田原版 坂の上の雲	明治・大正時代の一大別荘地	11月
	9	寺社体験	座禅・説法・写経と精進料理	12月
平成 31年	10	小田原七福神	年頭の祈願、歩き初め	1月
	11	総構 <small>そうがま</small> を取り囲む秀吉側陣場から 総構を望む	総構丘陵コース・海岸コース、豊臣軍包囲網	2月
	12	おかめ桜 東洋のリエラ	おかめ桜、早春ハイクと眺望	3月

※企画ガイド名は仮称です。見どころ・実施月は変更になる場合があります。詳しくは小田原ガイド協会HPで。

「ガイド協会」

二十周年にあたって」

二十周年記念行事委員長

高杉 昭廣

平成二十九年、小田原ガイド協会は設立二十周年という記念すべき年を迎えました。この節目の年にあたり、記念誌の発行と記念パーティー（記念式とする）の開催をすることになりました。

平成二十九年五月二十七日（土）の第一回会合にて「ガイド協会二十周年記念行事委員会」という名称で発足し、以降十二回の会合を重ねてまいりました。

委員会の記念行事案として、一、記念誌を平成三十年一月三十一日までに発行する。二、記念式を平成三十年二月に開催する。を承認後の第二回から、この二項目を同時に進行してきました。前半は主に記念誌発行業務に、後半は記念式開催関連業務にシフトして進めるようにしました。

特に最終月の平成三十年一月には三回の委員会を開き、記念式における式典と懇親会の具体的な内容の詰めと確認に注力しました。その間に、OB会の正式発足に向

けて準備を進める中で、事務局を協会内に置くことになりました。今回、大変だったのが写真の収集でした。企画ガイド、駅からガイド、回遊バス等のスナップ写真が少なく、最後まで苦労しました。何はともあれ、委員各位の努力の積み重ねにより無事終わることができましたことを感謝します。



二十周年記念誌

「二十周年記念式典懇親会」

に想う

小田原ガイド協会副会長

飯沼 忠雄

何年か後に今日のこの日の事が、多くの方の懐かしい思い出となつて思い出される事だろうと思つた。平成九年に発足した「小田原ボランティアガイド協会」は昨年末に、本多芳雄さんが急逝されて、一期生二十四名全員が退会者欄へ移つた。

この時に記念の二十周年の式典を開催できるのも、意味のあることかもしれない。

平成九年から今年入会した五名の方まで、総数は二百二十四名となる。二十周年で二百二十四名の方がガイド協会に籍を置いた。そして、それぞれが協会内で何らかの関りを持ち、足跡を残した。

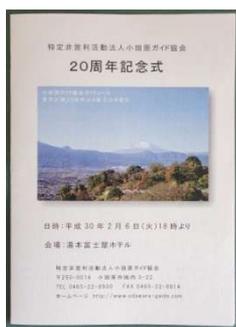
最近、足腰に多少の痛みは出てきたが、それでも当番日に出勤できることはうれしく思えるのが実感である。

二十周年記念式は平成三十年二月六日、箱根湯本富士屋ホテルにて午後六時から、御来賓四十二名・OBの方二十二名・現役六十

八名の計百三十二名の参加となつた。お開きは賑やかに石黒さんが三本で締めた。午後九時を過ぎてホテルを出ると、箱根の夜の風はさすがに冷たかったが、心はなぜか暖かった。「少年老いやすく、学成り難し・・・」遠くの方でそんな声がきこえた。



初代会長 山田 昇氏の挨拶
20年来のOB、そして現役、来賓の皆さん



記念式リーフレット

◆歳の初めに幸せを願う◆

企画ガイド

「小田原七福神めぐり」

田和 千恵子

年明けからの晴天が一転した曇天の寒い朝。小田急線足柄駅には元気な常連の方々の声が響きました。事前申込み者四十七名の内、四十名の方々がお集まり下さいました。現世利益を求めての七福神めぐりへ、いざスタートです。

本企画を毎年恒例の七福神参りに利用されているお客様のの中には、寒い中のガイドの説明よりも、早くお参りを済ませたいという様子の方もいて、インカム（無線式イヤホンスピーカー）の威力を発揮する機会でもありました。

昨今、流行している御朱印帳の要望もあり、次回からは募集チラシ段階での対応も含めて検討の余地があるかと感じました。

意外な反応としては、蓮船寺側から見下ろした東堀との高低差に、一様に驚かれていたこと。その先の石垣山や富士山砦（ふじやまとりで）が望める所でも小田原合戦時の最前線であったことに感嘆されていました。

歴史の話に興味を示さなかった

お客様までも反応されていたことに、「百聞は一見に如かず」の威力を感じました。

お客様から昨年のように終了時間が遅くならないでとの要望もあり、疲れも出てくる海側の報身寺（大蓮寺）圓福寺の道中では、一方的な長話をせずに対話形式で共に歩くようにし、自動車等の往来にも注意しました。

圓福寺では千支切り絵をお渡しし、無事お参りが終了しました。早めの解散にお客様から「楽しかった」との声を頂戴できたことに肩の荷が下りた思いでした。



高長寺もご案内

◆素晴らしいコントラスト◆

企画ガイド

「菜の花の吾妻山から」

絶景富士を望む

高橋 光男

企画ガイド初めての、国府津駅から二宮町への特別企画です。

国府津・松田断層の活動により隆起した大磯丘陵、こうした豊かな遺産を新たな地域振興に活用し育んだ古道を歩き、「自然の景観」と「歴史・文化」を楽しめるコースです。

一月十九日（金）薄曇り、太陽の日差しを期待し四十五名のお客様を迎え出発。人々が育み歴史が刻み込まれた寺院の小路を歩き、大山みちの道標より急な坂を登ると南に海が開ける「車坂」である。

約五千五百年前、島であった車坂は、羽根尾の台地に寄り添い隆起した小丘陵で、有史以来、景勝地であった。旅人は、急峻な丘陵の裾野を避け、小丘陵の尾根伝いに安全な道を歩き、景観を楽しみ、旅をしたのだろうか。

箱根ジオサイト最東端の羽根尾貝塚は、縄文の海進により古中村湾が誕生、その内湾の集落遺構である。

和やかにお客様の話を聞きながら、中村地区は六千年で二十m隆起、陸化が進み中村湖が消滅する。その後の地震でさらに隆起した土地は入り組んだ入会地となり、今もその面影がしのばれる。「間の宿」として栄えた梅沢の「立場茶屋」文久年間の家並み図を片手に旧東海道を散策、吾妻山公園を目指し九十九折れを登る。

薄曇りで富士山の絶景は望めず残念でしたが、満開の菜の花と「田吾作」の弁当を満喫し、身近な国府津山を眺め地域の絆を感じ、無事終えたことに安堵する。気持ちのよい爽快なひとときでした。



当日は薄曇りであったが菜の花が楽しめた。季節によっては、菜の花・梅・桜が同時に楽しめる。

◆四百年前に思いを馳せて◆
企画ガイド

「石垣山一夜城」

縦走ウォーキング

久保田 豊

家を出発する時の気温はマイナス三度、日中も八度程度までしか上がらないとの予報でした。

本日の参加者はガイド員六名を含み、六十名です。私のグループは女性八名と当養成講座の方を含み男性四名の計十二名で出発しました。

まず、皆様のお顔を覚えるために、地球博物館の前庭のストロマトライトの前で、この石がバクテリアのラン藻から出来たことと、ここに展示するのに二千万円の費用がかかったことを話すと「ワー」と感嘆の声があがり、まずまず皆様のお顔を拝見しコミュニケーションを始める事ができ、足を運びました。

開墾記念碑の前では、当時、相州ミカンの農地開墾と失業対策のために行われた事業を説明。約十三町歩の開墾で「黄色いダイヤ」と呼ばれ、輸出産業の花形になったこともあるミカンが、現在はキウイからシキミの栽培に替わって

いる畑を、一抹の空しさを感じながら足を進めた。

一夜城での昼食、案内の後、山を下り向山から横磯に向かい、キリシタン追放令を受けても、昨年度没後四百年にローマ法王丁による列福式が大阪城ホールで開かれた事を説明すると、右近を偲んで沈黙の時間が訪れました。

旅舎かめやでは小田原の文学について語り、藤村、白秋、谷崎、佐藤春夫の恋愛遍歴を語ると、「皆もそうだよね」と一オクターブ高い声での呼びかけも参加者から出ました。
盛り上がったところで終点早川駅にて皆様とお別れしました。



石垣山一夜城は、400年以上も前の穴太衆が積んだ石垣が現存する大変貴重な遺構。

◆今年の咲き具合は◆
「平成三十年梅まつり」

開催中!

関森 規安

今年の梅まつりは、二月三日〜三月四日まで、小田原城址公園と曾我梅林にて開催されている。今年の特長は何と云っても、開花が遅い事だ。執筆時点でもまだ満開にはなっておらず、しかしその分先まで楽しめるという訳だ。特に曾我梅林ではまだつぼみが堅いところもある。かたや小田原城址公園では、あちらこちらで梅の花が咲き、良い香りを漂わせている。

曾我梅林では、土日、祝日に希望の方に無料ガイドをおこなっている。二月も毎回、当番のガイドほぼ全員（七名〜十名）がお客様のガイドに出ていってしまうほどの人気である。

梅林周辺ののんびりした風情、箱根の山々の遠望、そして農家の野菜畑などの風景が入り混じって、まさしく田舎の原風景が目の前に広がっている（都内から来られたお客様の声）。

また、曾我丘陵へと登る丘コースでは、箱根連山と富士山の景色が素晴らしく、真鶴半島や伊豆大

島などの半島や島々の景色が花を添え、道中に何度も足を止める。この丘コースに毎年来られるリピーターや、ただ歩きに来たから、というお客様までこの景色に魅せられた方々も多い。

なお、昨年度より下曾我駅「梅の里センター」にレンタサイクルが用意された。電動タイプも用意されこれも人気である。曾我梅林は思った以上に広いので、自転車があると行動範囲も広がる。



曾我梅林 丘コースよりの眺望

曾我兄弟の歴史があちこちに点在する山里、約三万五千本の梅、そして素晴らしい非日常的な景色が皆さんをお待ちしています。

今年白秋が小田原に来て百年目にあたる。二人目の妻、章子と御幸の浜の養生館に仮寓したのが一九一八年(大正七年)三月五日。お花畑の借家に移ったのが四月。そして十月には天神山の伝肇寺へと転居する。

実はその頃、二人は赤貧の極みにあつた。妻の章子によると、南町の別荘地の気風が合わず、コソコソと逃げるようにして天神山に越してきたという。この山寺に越してから運が向いた。再び文学的名声を取り戻し、「赤い鳥」創刊など童謡ブームもおこり、収入も増えた。

白秋は章子についてこう書いている。「私は私の妻を信じ、私の妻は私を信じた。私達は貧しかったが、かえってしあわせであつた」(「雀の卵」序文)

しかし人生どこに魔が潜んでいるかわからない。その本が出版されたわずか二か月後、新築する山荘の地鎮祭の夜、乱闘事件が起きる。白秋の親族たちが章子をなじ

つた。白秋はそれをかばつた。そして灯が突然消え、誰かが誰かをポカリと殴つた。数人が真中病院に運ばれた。その最中に章子は居合わせたひとりの男とどこかに姿を消したのだ。

結局、白秋と章子は別れる。白秋はともに苦労した糟糠の妻を捨てることとなる。その後の章子は流転を重ねた。最期は心と体を病み、故郷の家の座敷牢の中で、雪の降る日に震えて死んだ。そのかたわらに手垢にまみれた白秋の歌集があつたという。

作家は恋愛する。しかし文学者としての矜持は忘れない。白秋は書いている。「旧事の道徳を破ることは必ずしも墮落ではない。その人の自身の真実をその人自ら偽り恥ずかしむ事が私のいう墮落である」

その年の九月、白秋は友人の河野桐谷から佐藤菊子を紹介してもらう。離婚から四か月、何という立ち直りの早さ、変わり身の早さだ。そして翌年の四月祝言をあげる。

「一人では、さびしい。さびしい。さびしい。キッス、キッス」これ、菊子にあてたラブレター。

「今年の干支」について

◆◆遅ればせながら今年の干支は「戌」年。ちなんで「戌」と「犬」に関する情報をお贈りします。

◇まず干支とは何かを改めて調べてみる。干支の「干」は十干のことで「支」は十二支のことである。十干と十二支を合わせて干支という。日本には飛鳥時代に伝わったとされる。いつ頃からか「かんし」が「えと」という読みが変わっていった。

◇方位、時刻までもこの十二支で表したことは、無学な民衆でもこれを覚えて使えるようになってもらう為、馴染み深い動物が割り当てられたと言われている。

◆戌は元々の意味は、本来は「滅」という字からきていて、「ほろぶ」という意味があつたそう。縁起の悪い意味ではなく「戌」は十二支の11番目ということで、実りの季節を終えて、草木が枯れ始める、散りゆく季節ということで「滅」という字があてがわれたとか。

◇さらに「戌」という字は「戈(ほこ)」と「一」の漢字2文字を合わせたものとされ、「刈って収穫した農作物を一つにまとめる」という意味がある。

◇前年の「酉」には、「実る」「熟成する」という意味があるようで、次の年の「戌」に「収穫する」「草木が枯れていく」、という意味になるのはなるほど納得・・・

◇戌年には、犬のお産が軽いことから安産については「戌の日」が吉日とされる。

◇戌年の人は、「勤勉で努力家」といわれる。

◆次に「犬」に関して、「犬公方」と呼ばれた5代綱吉は成年生まれで、生類憐みの令は犬だけでなく、猫、鳥、魚類、虫類にまで及んだが、本来の目的は捨て子対策であつた。

◇当時、現東京・中野区に犬屋敷が作られ、広さ約30万坪で中野周辺にはこのような施設が5カ所あつたとされる。計約9万頭収容され年間の維持費約10万両で、専任の犬奉行や獣医もいたとか。

◇中野区役所前には犬の像が並び、「囲町」という町名もあり、この犬囲い施設に由来する。

◇西郷隆盛が連れている犬は狩猟犬で、絶滅した薩摩犬であつた。

【文殊の知恵 編集委員】

楽しく歩こう旬情報“春”!!

No.	企画ガイド名	日時・集合場所	参加費	コース
1	徳川慶喜公の散歩道	3月10日(土) 9:30 JR 国府津駅	500円	国府津駅～主治医宅～長谷川邸～菅原神社～蓮台寺～宝金剛寺(昼食)～田島の菜の花～別所梅林～JR 下曽我駅(解散)
2	根府川から江之浦への史跡 青い海と桜の遠望	3月31日(土) 9:30 JR 根府川駅	500円	根府川駅～寺山神社～関所跡～江之浦漁港～展望台～江之浦公民館(昼食)～大美和神社～天正庵跡～根府川駅(解散)
3	桜とお城と 西海子小路	4月5日(木) 9:30 JR 小田原駅東口 (金次郎像前)	2,000円 お弁当付	小田原駅～閑院宮別邸跡～藤棚～御幸の浜～西海子小路～文学館(昼食)～小田原城(解散)

各コースの参加申込は、実施日の1ヶ月前からです。詳細・申込み 電話番号：0465-22-8800



ずっと勉強中 古稀でも若い!

勉強会で勉強、さあ歩こう。
一月十一日、梅の里・丘陵コースで一万八千歩。祐信宝篋印塔までの坂はきつい。「五センチでも前へ出せば進みますよ。」「ハイ。体力勝負。「来年は登れるかなあ。」と七十歳の先輩。宗我神社等の社寺や諸神仏にその名称由来、更に曾我氏に文豪にと長い歴史のある里の案内は広汎な知識がいる。梅は三万五千本。種類、手入れ、高齢化など、梅干し一個三百円は高くない。
山と海と花と香とだんご、これで完璧。青空だけでも良。



ガイド協会と私シリーズ⑮
十五期生 長田 康子

一月十八日は大外郭の丘陵コースで、一万七千歩。坂あり尾根あり音をあげた。帰宅したら三十八度の熱。北条が豊臣が白秋が松永が、それに繋がる強者らの夢。
総構などの言葉や新しい史跡など、里とは別の多岐な知識がいる。オーバーフロー。知力勝負。「松田憲秀が悪く言われるが実際はどうだったのかと思って。二年計画だね。」と八十四歳の先輩。
雪の日も台風の時も、当番勤めを支えているのは体力・知力そして話力。と会員の和力。

平成二十九年十二月以降の退会者

田和千恵子様
大変お疲れ様でした。

編集後記

■春号記事はいかがでしたか？
今号の干支に関する話では、ガイド時に参考にして頂けるよう文殊の知恵を出し合いました。入会時、OGO協会だよりを読み判らない箇所には赤線を引き、諸先輩方に尋ねたことを思い出します。このOGOを通じ、協会の方々が多くの情報を交わす「きつかけ」作りが出来たら嬉しく思います。

皆様の「引き出し」にある「楽しく役立つ情報」をお寄せください。お待ちしております。(徳)
■今号よりこの協会便りをより多くの方々に読んでいただくとうと、HPに掲載することになりました。HPでは写真をカラーで提供しますので、より臨場感を感じていただけるものと思っています。(中)

編集委員長 中村 哲夫

委員 栢沼千代美

同 徳永千恵子

同 関森 規安